



未来を見据えた 確かな一歩を

稲沢市長 加藤錠司郎

あけましておめでとうございます。

市民の皆さまには、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが2類相当から5類へと変更され、3年以上続いたコロナ禍から脱却の第一歩となりました。そのような中、稲沢市は市制65周年を迎え、さまざまな記念事業で全市的な盛り上げを図ってまいりました。大相撲春巡業、稲沢の文化財展～性海寺の文化財～、NHK「新・BS日本のうた」公開収録などを行ったほか、11月には「おかげさまで65周年感謝祭」を開催し、感謝祭メインイベント「稲沢カレーフェスティバル」では「華麗なるまち 稲沢」を宣言するとともに、「カレー+稲沢らしさ」を具現化したカレー料理が販売され、大盛況となりました。カレー料理は市内40店舗で販売していますので、皆さまに愛されるご当地グルメとして今後もぜひ応援をお願いします。

他にも市のPR動画「ヤバいなざわ」のJR・名鉄名古屋駅でのデジタルサイネージ放映、ウルフドッグス名古屋とタイアップした稲沢駅東西自由通路のラッピング装飾など、プロモーション活動にも力を入れてまいりました。今後も本市を力強くPRしてまいります。

昨今の円安などの影響による物価高騰や高齢化などによる人手不足は加速するばかりで、景気の先行きはなお不透明な情勢ですが、昨年は地域経済活性化に向け「どう使う稲沢！デジタル商品券」の発行などを実施しました。今後も、国や県の経済対策の動向を注視しながら、引き続き必要な支援に取り組んでまいります。

また「子育て・教育は稲沢で！」をスローガンに、昨年は子ども医療費無償化の拡充、乳児おむつ用品等配布事業などを行ってまいりました。本年も、中学校屋内運動場空調整備、(仮称)井之口調理場整備など子どもたちの学びを取り巻く環境整備事業に注力し、安心して子どもを産み育てることができるまちへの取り組みを進めてまいります。

結びにあたり、本年が皆さまにとって健康で喜びと幸せに満ちた一年となりますようお願い申し上げます、新年のごあいさつといたします。

市民と対話する身近な 市議会を目指して

稲沢市議会議長 六鹿順二

あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。日ごろから本市議会の活動に対してご理解と温かいご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年9月に市議会議員の選挙が行われ、10月から新たな26名の議員により構成された市議会がスタートいたしました。議員の平均年齢がぐっと若返ったとともに、女性議員の数もこれまでの3人から7人へと倍増するなど、今まさに、稲沢市議会は転換期を迎えております。市民の皆さまから信託をいただいた4年間、二元代表制の一翼を担う機関として、しっかりとした議論を重ね、市政の監視役としての責務を全うしていく所存でございます。

さて、昨年は日本中が沸き返った侍ジャパンのWBC優勝にはじまり、スポーツがとて注目浴びた年でありました。いくつもの競技でパリオリンピックの出場をかけた戦いが国内外で繰り広げられ、日本中が盛り上がりました。中でも男子バレーは、本市に拠点を置くウルフドッグス名古屋から選ばれた選手の活躍もあり、ワールドカップで2位の好成績を収め、16年ぶりに自力で出場権を獲得しました。そのオリンピックの聖火の採火式が4月16日に本市の姉妹都市であるギリシャのオリンピア市で行われます。今年は現地での聖火リレーに本市の中学生が参加するとのことで、大変楽しみにしております。

対話型人工知能(AI)のチャットGPTが日本中に衝撃を与えた2023年。日本のデジタル化が叫ばれる中、本市議会も議会改革の一環としてICT化を推進しております。しかし、地域の課題を解決するためには、その地域の人との対話が必要です。市民の皆さまの声を積極的に収集し、市議会を身近に感じていただけるよう、議会活動に取り組んでまいりますので、今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、市民の皆さまにおかれましても、この2024年が明るく豊かな年になりますよう心から祈念しまして、新年のあいさつといたします。